

「総合的な学習の時間」モデル事業中間報告書

(モデル校名 広島県立忠海高等学校)

1 学校の概要 (平成15年4月現在)

広島県立忠海高等学校 (全日制普通科)					
	1年	2年	3年	計	教職員
学級数	3	3	3	9	33
生徒数	113	105	94	312	

2 「総合的な学習の時間」の現状

本校では、「総合的な学習の時間」(名称:進路研究)を導入して、今年度で4年が経過する。各種学校行事との連動により、全教職員で取組む態勢が出来上がっている。また、課題探究的な学習や体験的学習は、生徒の進路意識を早期に高めることにつながっており、その後の学習意欲や進路実績へと着実に反映しているといえる。

ただし、マクロ的な視点における成果の一方で、ミクロ的、すなわち生徒個々の指導と評価のあり方や主体的な学習態度および積極的かつ論理的で豊かな表現力の育成方法、さらには各教科・科目と「総合的な学習の時間」の関連性などにおける研究はいまだ不十分と言わざるをえない。その結果、いささかマンネリ化・形式化した指導に陥りやすい状況や日頃の教科指導とは遊離した展開になりがちなのも事実である。とりわけ高校では、卒業後の進路選択およびその実現に向けた教科指導・進路指導に重点がおかれがちな現状もある。

3 研究主題と目標設定

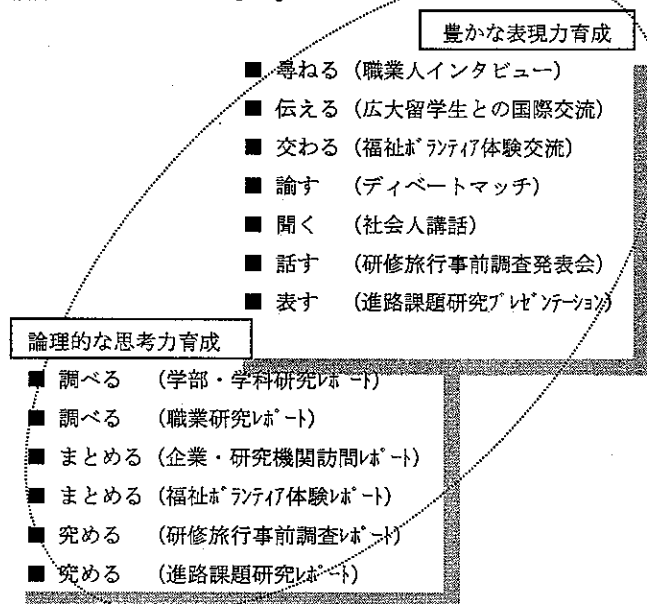
生徒自らが主体的に考え、自己や社会の課題を探究し、解決していこうとする学習活動や、物事を論理的に思考し、自信を持って他者に表現していく力の育成こそが、結果的には学習意欲や「生きる力」につながるということを検証していくために、仮説をたて、指導や評価の研究を続けることは極めて重要である。さらに、高校でも今年度より本格導入となった「総合的な学習の時間」を、高校3年間だけの展開として捉えず、小・中・高校10年間における児童・生徒の発達段階に対応した指導や目標設定および教育内容の系統性を持たせていくことが求められる。このことは地域の教育力の活用や地域の共通課題への取組みを進めていく意味においても重要といえる。そこで、竹原市地域の研究主題として、次のテーマを設定し、小・中・高校における指導内容の系統化、とりわけ「論理的な思考力と豊かな表現力」の育成に係る指導の手だてや地域の共通教材をテーマとする教科横断型の指導についての連携協議を進めてきた。

教科で学んだ力をいかし、
 自らの生き方を考える「総合的な学習の時間」
 -小・中・高の連携をいかして、論理的に考え、
 表現する児童・生徒の育成-

4 成果と課題

モデル地域としては、小・中・高校の各校種における指導内容および指導方法の実際を相互に学ぶことができた。さらに、構想段階ではあるが、協議を重ねて指導内容の系統性を組み立てることができた。

本校の成果としては、2年次の「研修旅行事前調査発表」ならびに「課題研究プレゼンテーション」については、放課後等の時間も利用することによって全生徒(73名)個々の発表を相互に視聴・評価することができた。当然のことながら、「論理的な思考力や表現力の育成」についてはその機会(調査・研究・発表ならびに視聴・評価の場)を適宜保障することが肝要であり、6月の「研修旅行事前調査発表」では説得力の乏しさが目立ったものの、9月の「課題研究プレゼンテーション」については、体験をもとにした調査内容や画像等の資料を効果的に活用することによって、説得力や表現力のレベルアップが見られた。また、1年次の広島大学留学生との国際交流ならびに企業・研究機関訪問、2年次のディベート学習等においては、教科で学んだ知識やスキルを有効活用させることができた。



5 次年度に向けて

次年度に向けては、地域の共通教材を有効に活用し、「論理的な思考力と豊かな表現力」の育成に係る指導の系統性の質と具体化を高めていくこと、また、より効果的な評価のあり方を研究していくことを重点としていきたい。そして、研究主題にある「教科で学んだ力をいかす」ために各教科の指導内容と「総合的な学習の時間」での学習が相互補完的となり、教科学力の向上につながる指導内容ならびに授業改善を進めていくために小・中・高校の連携をさらに深めていく計画である。

● 使命

様々な分野において、社会に貢献しうる人材の育成をめざし、生徒が主体的に学習できる教育内容及び小規模校の利点を活かした教育内容の創造をもって生徒一人一人の自己実現を図る。

● 目標

地域社会から信頼される学校

真の学力向上を推進する学校

豊かな心を育む学校

● めざす生徒像

自分の夢として語りうるものを持ち、
その実現に向けてたゆまず努力する生徒

将来の社会についての展望を持ち、
その健全な構成員となろうとする生徒

総合的な学習の時間

研究課題設定

学習・調査・体験・探究

まとめ・発表

基本的な学習過程

【育成したい力】

- ◆ 自己の在り方生き方を考える姿勢
- ◆ 学習への主体的、創造的態度
- ◆ 学び方、ものの考え方のスキル
- ◆ 課題設定・問題解決能力
- ◆ 論理的な思考力と豊かな表現力

全教職員指導
各学年会連携

T・T指導
外部講師活用

行事・特別活動等との関連

- 文化週間
- 社会参加週間
- 学校開放行事
- 学習成果体験報告会
- 関係中学校出張授業
- 部活動

教科等の学習との関連

- 基礎・基本の徹底
- カリキュラムの系統化
- 教育内容の関連づけ
- 朝読書
- 小論文指導
- LHRとの一体

外部等の教育力の活用

- 関係小・中・高
- 大学・研究機関
- 行政・社会福祉法人
- 事業所・地域
- NPO団体
- PTA・同窓会

「総合的な学習の時間」(進路研究)の展開

広島県立忠海高等学校

教科指導との関連

Key Word
 基礎・基本の徹底
 論理的な思考力と豊かな表現力

**確かな学力
 確かなライフプラン**

◆進学補習開始

3年4月

◆課題探究型学校設定科目「ゼミナール」開始

◆少数・習熟度別・TT授業の充実

◆多様な選択科目

2年4月

◆福祉ボランティア体験(家庭科)

◆実践的コミュニケーション(英語)→**広島女学園学生交流**

◆小論文指導開始 **学園別大学出張講義**

◆夏季学習合宿

◆夏季補習

◆新入生学習合宿

1年4月

インターンシップ
 (職場体験実習)

忠高カレッジ
 (進路希望別出張授業)

進路課題研究レポート作成
 (課題探究)

レポート
 (論理的な思考力の育成)

時代の変化を知る(福祉・環境・国際化等)

企業 研究機関訪問
 (キャリア意識の育成)

■職業の世界を探る

■学問の世界を探る

研究発表

文化週間

社会参加週間

学習成果報告会

体験発表

現地研修

研修旅行

文化週間

社会参加週間

学習成果報告会

Key Word

地域への貢献と信頼確立
 生徒の自信と誇り

学校行事との連動

10月

11月

1月

2年4月

6月

10月

1年4月

平成16年度 総合的な学習の時間 年間指導計画

校番26番 広島県立忠海高等学校 全日制課程 本校 学科 普通科
 実施年次・学期 第2学年

名 称	進路研究
指 導 目 標	生徒が自らの進路に応じて設定した課題について、知識や技能の深化、総合化を図る学習活動をとおして、問題解決能力や学習スキルを身につけるとともに、主体的に進路を選択していく能力を育成する。
学 習 活 動 の 概 要	自己の在り方生き方や進路について考察する学習活動
配 当 す る 授 業 時 数	70単位時間
付 与 す る 単 位 数	2単位
授 業 時 数 の 配 当	第2学年（前期）においては、週当たり2時間を特定の曜日・時間（連続2コマ授業）に固定する。第2学年（後期）においては、特定の期間に集中的に実施する。
教 材 の 使 用 等	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容に応じた学習ワークシート及び資料等（プリント）を作成、使用する。 大学や企業、教育関係機関等が発行しているシラバス、案内等の資料を収集、使用する。
学 習 の 状 況 や 成 果 な ど を 評 価 す る 観 点	課題設定の能力／問題解決の能力／学び方、ものの考え方／学習への主体的、創造的な態度／自己の生き方
学 習 形 態	学習の深化が図れるよう、一斉指導からグループ学習、個別学習へと学習テーマに応じた学習形態を工夫する。
指 導 体 制	<ul style="list-style-type: none"> 自己の在り方生き方について考察する学習活動を展開するに当たり、複数の教員によるチームティーチングで実施する。 大学や地域において専門的知識や技術を持った人材を活用する。

(第2学年)

	月	指導時間等			指導内容, 指導方法等	実施場所
		合計	週時程	集中		
学 習 活 動	4	8	8		○時代の変化を知る 現代社会の課題について(講義)[一斉] 自己紹介ゲーム・ミニディベート(演習)[グループ] チーム対抗ディベート(演習)	
	5	4	4		モデルディベート大会(演習) 社会人講話(講話)[一斉] ・少子高齢化社会の生き方 ・国際情報化社会の生き方	
	6	16	10	6	研修旅行にむけての事前調査 ・研究テーマ設定(調査・研究)[グループ] ・ディベート(演習)[グループ] ・レポート作成(環境問題等)について *研修旅行(研修)[個人・グループ]	北海道(道東)
	7	4	4		研修旅行のまとめ(まとめ)[個人・グループ] ○将来の進路を考える 進路課題研究テーマ設定(調査・研究)[グループ・個別]	
	8				進路課題研究(調査・研究)[グループ・個別]	校外での フィールドワーク
	9	8	8		進路課題研究(調査・研究)[グループ・個別] 学年発表会(発表)[一斉]	
	10	3		3	文化週間報告会(発表)[一斉]	
	11	2		2	職場体験実習(インターンシップ)(講義)[一斉] インターンシップの意義 昨年度の実施内容紹介(スライド視聴) 希望事業所希望調査(調査)[個別]	
	12	5		5	忠高カレッジ(希望別大学出張講義) 依頼状の作成・発送(講義)[一斉] 担当教員との打ち合わせ	
	1	3		3	事業所との打ち合わせ(実習)[個別] 担当教員との打ち合わせ	
	2	17		17	インターンシップ(2日間)(実習)[個別] 研修報告書・礼状作成(まとめ)[個別] 社会参加週間報告会(発表)[一斉]	地域の企業等
	指導時 間等計	70	34	36	* および 10月以降 については, 特定の期間に集中的に実施	

平成16年度 総合的な学習の時間 年間指導計画

校番26番 広島県立忠海高等学校 全日制課程 本校 学科 普通科
 実施年次・学期 第1学年・後期

名 称	進 路 研 究
指 導 目 標	生徒が自らの進路に応じて設定した課題について、知識や技能の深化、総合化を図る学習活動をとおして、問題解決能力や学習スキルを身につけるとともに、主体的に進路を選択していく能力を育成する。
学 習 活 動 の 概 要	自己の在り方生き方や進路について考察する学習活動
配 当 す る 授 業 時 数	40単位時間
付 与 す る 単 位 数	1単位
授 業 時 数 の 配 当	第1学年（後期）において、週当たり2時間を特定の曜日・時限（連続2コマ授業）に固定する。
教 材 の 使 用 等	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容に応じた学習ワークシート及び資料等（プリント）を作成、使用する。 大学や企業、教育関係機関等が発行しているシラバス、案内等の資料を収集、使用する。
学 習 の 状 況 や 成 果 な ど を 評 価 す る 観 点	課題設定の能力／問題解決の能力／学び方、ものの考え方／学習への主体的、創造的な態度／自己の生き方
学 習 形 態	学習の深化が図れるよう、一斉指導からグループ学習、個別学習へと学習テーマに応じた学習形態を工夫する。
指 導 体 制	<ul style="list-style-type: none"> 自己の在り方生き方について考察する学習活動を展開するに当たり、複数の教員によるチームティーチングで実施する。 大学や地域における専門的知識・技術を持った人材を活用する。

(第1学年)

	月	指導時間等			指導内容、指導方法等	実施場所
		合計	週時程	集中		
学 習 活 動	10	10	10		○オリエンテーション(講義)[一斉] 自己診断テスト(検査)[一斉] ○学問の世界を知る 学問研究(調査・研究)[グループ]	
	11	8	8		学問研究(調査・研究)[グループ] 大学からの出張講義(講義)[一斉] 広島大学留学生交流行事[グループ]	
	12	6	6		学問研究(調査・研究)[グループ] 大学からの出張講義(講義)[一斉] ○職業の世界を知る 職業研究(調査・研究)[個別]	
	1	6	6		職業研究(調査・研究)[グループ]	
	2	8	6	2	職業研究(調査・研究)[グループ] (企業・研究機関訪問(見学)[グループ]) 学年発表会の準備(レポート)[個別・グループ] 学年発表会(発表)[一斉] *社会参加週間報告会(発表)[一斉] 進路講演会(講演)[一斉] 1年間のまとめ ○時代の変化を知る 現代社会の課題について(講義)[一斉]	地域の大学・ 企業等
	3	2	2		現代社会を考える(ディベートとは)(講義・視聴)	
指導時間等計		40	38	2	*については、特定の期間に集中的に実施	

平成16年度 総合的な学習の時間 年間指導計画

校番26番 広島県立忠海高等学校 全日制課程 本校 学科 普通科
理数科学コース
実施年次・学期 第2学年

名 称	科 学 と 人 間
指 導 目 標	生徒が自らの進路に応じて設定した課題について、知識や技能の深化、総合化を図る学習活動をとおして、問題解決能力や学習スキルを身につけるとともに、主体的に進路を選択していく能力を育成する。
学 習 活 動 の 概 要	生徒が興味・関心、進路等に応じて設定した課題について、知識や技能の深化、総合化を図る学習活動
配 当 す る 授 業 時 数	70単位時間
付 与 す る 単 位 数	2単位
授 業 時 数 の 配 当	2単位のうち、1単位を週時程に位置づけ、1単位を特定の期間に集中的に実施する。
教 材 の 使 用 等	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容に応じた学習ワークシート及び資料等（プリント）を作成、使用する。 大学や企業、教育関係機関等が発行しているシラバス、案内等の資料を収集、使用する。
学 習 の 状 況 や 成 果 な ど を 評 価 す る 観 点	課題設定の能力／問題解決の能力／学び方、ものの考え方／学習への主体的、創造的な態度／自己の生き方
学 習 形 態	学習の深化が図れるよう、一斉指導からグループ学習、個別学習へと学習テーマに応じた学習形態を工夫する。
指 導 体 制	<ul style="list-style-type: none"> 理数分野における体験的・問題解決的な学習活動を展開するに当たり、複数の教員によるチームティーチングで実施する。 大学や地域における専門的知識・技術を持った人材を活用する。

(第2学年・前期)

	月	指導時間等			指導内容, 指導方法等	実施場所
		合計	週時程	集中		
学 習 活 動	4	3	3		1 科学技術と自然 (1) 近代科学と人間 ・科学の始まり ・近代人の自然支配 (講義・研究) [一斉・グループ]	
	5	4	4		・科学的な考え方と哲学的な考え方 (講義・研究) [一斉・グループ] (2) 自然の探究と科学技術の発展 ・科学研修旅行にむけての事前調査 ・研究テーマの設定について ・研究テーマの決定 (調査) [グループ・個人]	
	6	3	3		・研修計画書(研修旅行のしおり)の作成 (研究) [グループ・個人] ・研修先との連携	
	7	18	2	16	*科学研修旅行(3泊4日) (実習) [グループ・個人] ・研修旅行報告会準備(まとめ) [グループ・個人]	屋久島 種子島
	8				(報告会準備)	
	9	3	3		・研修旅行報告会準備(まとめ) [グループ・個人]	

(第2学年・後期)

	月	指導時間等			指導内容, 指導方法等	実施場所
		合計	週時程	集中		
学 習 活 動	10	7	5	2	<ul style="list-style-type: none"> ・研修旅行報告会 (発表) [グループ・個人] *文化週間報告会 (3) 科学技術の発達と自然との共存 ・科学技術がもつ光と影 (講義・研究) [グループ] ・環境倫理 ・生命倫理 ・社会人講話 (講話) [一斉] 	
	11	5	5		2 科学技術と人間生活 (1) 生活の中の科学技術 <ul style="list-style-type: none"> ・科学技術と生活の変化 (研究) [個別] ・体験実習 (インターシップ) の意義 (講義) [一斉] ・昨年度の実施内容紹介 ・希望事業所希望調査 (調査) [個別] 	
	12	3	3		<ul style="list-style-type: none"> ・依頼状の作成・発送 (実習) [個別] ・担当教員との打ち合わせ 	
	1	3	3		<ul style="list-style-type: none"> ・事業所との打ち合わせ (実習) [個別] ・担当教員との打ち合わせ 	
	2	19	2	17	<ul style="list-style-type: none"> *職場体験実習 (インターシップ) (2日間) (実習) [個別] *研修報告書・礼状作成 (まとめ) [個別] *社会参加週間報告会 (2) 科学の課題とこれからの人間生活 ・「物質とエネルギー」 	地域の企業等
	3	2	2		<ul style="list-style-type: none"> ・「生命と環境」 ・「宇宙と地球」 (まとめ) [個別] 	
指導時間等計		70	35	35	* については, 特定の期間に集中的に実施	

平成16年度 総合的な学習の時間 年間指導計画

校番 26番 広島県立忠海高等学校 全日制課程 本校 学科 普通科
理数科学コース
実施年次・学期 第3学年

名 称	科 学 と 人 間
指 導 目 標	生徒が自らの進路に応じて設定した課題について、知識や技能の深化、総合化を図る学習活動をとおして、問題解決能力や学習スキルを身につけるとともに、主体的に進路を選択していく能力を育成する。
学 習 活 動 の 概 要	生徒が興味・関心、進路等に応じて設定した課題について、知識や技能の深化、総合化を図る学習活動
配 当 す る 授 業 時 数	35単位時間
付 与 す る 単 位 数	1単位
授 業 時 数 の 配 当	週時間割上、特定の曜日・時間に授業を固定し、1年間を通して均等に時間を配当する。
教 材 の 使 用 等	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容に応じた学習ワークシート及び資料等（プリント）を作成、使用する。 大学や企業、教育関係機関等が発行しているシラバス、案内等の資料を収集、使用する。
学 習 の 状 況 や 成 果 な ど を 評 価 す る 観 点	課題設定の能力／問題解決の能力／学び方、ものの考え方／学習への主体的、創造的な態度／自己の生き方
学 習 形 態	学習の深化が図れるよう、一斉指導からグループ学習、個別学習へと学習テーマに応じた学習形態を工夫する。
指 導 体 制	<ul style="list-style-type: none"> 理数分野における体験的・問題解決的な学習活動を展開するに当たり、複数の教員によるチームティーチングで実施する。 大学や地域における専門的知識・技術を持った人材を活用する。

(第3学年)

	月	指導時間等			指導内容, 指導方法等	実施場所
		合計	週時程	集中		
学 習 活 動	4	4	4		○課題研究 課題研究テーマの設定(調査・研究) [個別]	
	5	4	4		課題研究 (調査・研究) [個別]	
	6	4	4		課題研究 (調査・研究) [個別]	
	7	4	3		課題研究 (調査・研究) [個別]	
	8				(中間発表会の準備)	
	9	4	2	2	中間発表会の準備 *課題研究中間発表会 (発表) [一斉]	
	10	4	4		課題研究 (調査・研究) [個別]	
	11	4	4		課題研究 (調査・研究) [個別]	
	12	3	3		課題研究 (調査・研究) [個別]	
	1	5	1	4	*課題研究発表会 1年間のまとめ (発表) [一斉] (まとめ) [個別]	
指導時間等計		35	29	6	* については, 特定の期間に集中的に実施	